

児童の髪が赤くなったとき

以前、「児童が髪を赤く染めてきたときは、心の変化として捉え、本人や保護者から話を聴く」ということを確認しあったことがある。

その時、髪を赤く染めたということだけではなく、赤い髪がもとの黒に戻ったり、坊主頭になったり、頭に模様がつくように髪をきってきたりするなど、同様に捉え、同様の対応をしようと確認した。

赤い髪の子どもを見ると、以前の中学校での指導を思い出します。そのときの思いが次ページから綴られています。なお、具体的に実践内容は省略しました。



今・子どもは・Ⅱ

子どもを捉えなおす

課題研究委員会

はじめに

中学校3年生という時期は、半分大人で半分子どもである。それゆえ、ぐっと背伸びをしたいのである。自分の思いを行動として表そうとしたとき、校則がそのことを許さない。きまりがその背伸びを押さえつける。この時期にはもう一つ進路という壁がある。進路という壁がその背伸びをおさえつける。ときには、その壁が大きすぎ、乗り越えるどころかおおいかぶせられてしまい、どうしていいのか分からなくなってしまうのである。

校則・進路という壁が
たちはだかるとき

